



インタビュー全容

2019.7.16
@Montevideo/
Uruguay

KOKORO

あなたの人生について教えてください



PEPE



私の人生はある意味とても若かったね。現在とは別時代の人生だった。私はそんな私たちが住んでいた世界を変えたかった。

私たちの住む世界は自分のことばかりで周りの人のことは考えないそんな社会。それが苦しかった。だから私はそんな社会を変えたかったんだ。

教育で教えることは、働くために必要なトレーニングのことばかり。でも、大切なのはそうじゃないでしょ？教育は人生で幸せになるためのトレーニングでなければならない。

私たちは混乱している。教育はみんな生きるための訓練だと思ってる。だから失敗をするんだ。

私は生きている社会を変えてみたい。自分ばかりの利己主義を排除したら、私たちはより良い社会を作ることができると思っている。私はその夢を今も失っていないよ。

No,1

KOKORO

なんでウルゲアイの大統領になりたかったのですか？



PEPE



大統領になりたかった理由は一つ。大統領になることで私たちの社会の不正を正したかったんだ。

任期中、掲げたいくつかの目標を達成させることができた。でも、できなかったこともたくさんあった。今後はそのたたかいいにもっと若い人たちが参加してくれたら嬉しい。私はそう思ってるよ。

これは時代のたたかいだからね。世代の協力が必要だと気づいたんだ。私たちの世代のたたかいを次の世代に教えないといけない。生き残るためには、変わってはいけないんだ。

素晴らしい人生とは、生きる理由をもっていることだと私は学んだ。

生き物はみんな生きるためにたたかっている。人間と生き物の違いは少し意識があること。少しだけね。その意識次第である程度自分の人生の行く末を選ぶことができる。選べないなら、自分の人生の運命は経済市場の中に割り当てられるんだ。そう、一生涯お金を払い続ける人生にね。

そんな人の幸せは新しい物を次々と買い、そのために働き続けること。もっと新しい物を買うために働き、また次の日には古くなって、また新しい物を買う。これが死ぬまで続く。これが機能的な市場経済の文化なんだよね。

世界を良くするためにたたかいを試みることは、私の生きる理由になる。私は自分の人生を愛してるんだ。

No,2

大統領になった時の夢は何だったんですか？



PEPE

貧乏の数を減らすこと。そして、生まれた時からみんな同じ権利を有する社会をつくること。

でも、これを達成するのはもっとも難しいことかもしれないね。共和国はみんな平等だと言われている。でも、実際はみんな同じじゃないんだ。

あるグループの人たちはたくさんの資源を持っている。でも、あるグループの人たちは同じようには持っていない。寝るベッドも違う。人それぞれ違うんだ。難しい。

資本主義・社会主義・共産主義・について
どう考えますか？

PEPE

私は人間は社会的な動物だと思ってる。ドイツのカール・マルクスという思想家がそう言ってるからってわけではないよ。

人は生きていくために一人では生きていけない。必ず誰かと協力する必要があるんだ。

約3万年前、農業革命が始まって、資産や財産というモノが現れた。その資産が個人をつくり出した。

人間は、約200万年前からこの世界にいる。3万年前の農業革命が起こるまでは、その昔の人間たちは、40、50人ほどの大家族で生活していた。



しかし農業が発達したことによって、生きる手段が増えた。そして資産の存在を納得するようになってしまった。もうその後は、みんなも知ってる社会だね。

約250年前、産業革命が起こった。科学を展開して生産性を増すために様々なものが生まれた。それは、現代文明の基礎をつくったんだ。その広がりには凄まじいね。でもそこにはすぐ利己主義、自分勝手な考えが存在する。

資本主義には様々な素晴らしいメリットがある。でもデメリットとして、人間に利己主義を与えてしまった。

利己主義は自然界でよく見ることができるね。動物は自分の命のために戦う。自らの命を確保するために、他の命をいただく。これは、自然の中にある自然的な利己主義の形だね。

自然界は一对一。でも、私たちの場合は群衆にされた。私たちも自分の命のためにたたかっているけど、生き延びるためには社会が存在しなければならない。なぜなら、私たちは一人では生きることができないから。

私たちは個人個人、生きるために自分の命のためにたたかう。でもそれをするために社会に依存している。この矛盾をどうやって扱うか。これからの課題だね。

KOKORO

日本人についてどう考えがありますか？



PEPE

日本は最先端技術を持っている。たしかに裕福な国だと思うけど、日本人は幸せではない。

日本人は国の発展のためだけでなく、自分の幸せのためにもたたかわないといけない。

人生は一度っきりだし、すぐに終わってしまう。国内総生産の計算ばかりして、人間の幸せの計算をしないのは間違い。とても貧しいことだよ。

日本では絶望的に働く人が多い。そんな彼らの人生はすぐに終わってしまう。競争心に煽られ、若者たちは試験に落第し、失敗の気持ちで自殺することもある。狂気だよ。私は日本のこれまでの歩みを尊敬している。だけど哀れな気持ちもあるね。だって幸せの民族じゃないからね。きっとアマゾンに住む民族の方が幸せだよ。

貧乏だとか、裕福について言ってるのではないよ。私が言いたいのは、経済的な発展が人間に十分な幸せを与えることはないということ。経済的な発展は、人々の幸せなんて考えちゃいない。こんなにたくさんの人たちが心の病にかかっている時代はこれまではなかった。

日本には孤独が円満している。集団の中での孤独もね。私は日本に行ってからいろんなことを学んだ。日本は労働の精神と機知に富んだ素晴らしい社会だと思ってる。でも、私はそんな生き方をする人の国は好きではないね。

PEPE

私は、人々は友情・人間関係・恋愛のための十分な時間が必要だと思っている。

仕事ばかりを優先し、働くだけの強制だらけの機械のようにはなりたくない。

